

令和7年度 評価項目の達成及び取組状況

四絡幼稚園

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
			達成及び取組状況をふまえ、成果と課題等を明らかにし、自己評価する。 その際、必要に応じ、保護者アンケートの結果も含める。	評価基準により段階評価を行う。	評価基準により段階評価を行う。	自己評価及び学校関係者評価をふまえた改善策や次年度の目標を具体的に示す。
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	園の教育目標に基づいた学級経営案、毎月の指導計画を立案し、保育の実践に努めた。毎月の指導計画は、マトリックスの方法を活用し、担任間で話し合いながら構築するようにした。また、立案、実践、評価、改善をサイクルさせ、翌月につなげている。四絡地域の文化に親しむ機会を設けたり人材を活用したりし、豊かな体験ができるように努めた。	3	3	毎月、学年間で保育の構想・実践・評価について互いに学び合う機会を重視する。多様な考え方に気づき、職員同士、特に若手職員が学ぶ機会を重ねる。 園だよりや保育公開を通じて園の取組について周知する工夫を講じる。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	日常的に保育や子どもについて情報共有し、幼児の育ちや課題を多面的に捉えるように努めた。「つながるトーク」と称した話し合いでは、遊びの場面や幼児の姿から、支援方法を探り、チームで支えるように努めた。	3	3	「つながるシート」での実践記録を基に幼児理解に努める。「つながるトーク」を継続し、縦と横の連携から幼児理解を深める。担任間で保育や幼児を語る時間を継続し、他学年との情報共有を行う。担任がリードし、補助教諭とも学級内の幼児についての理解や対応を考えていくようにする。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	心理士や指導員による巡回相談、療育との支援会議、保健師からの情報などをとおして、幼児の発達に応じた適切な支援について学び、専門性を高めるように努めた。 保育や行事の場面での支え方について、担任間や補助教諭と共有し、学級の幼児が互いに育ち合えるような学級経営に努めた。 保護者や就学先との連携に努め、育ちや支援をつなげていくようにした。	3	3	幼児の実態や保護者の思いを把握し、支援を要する幼児を含め、すべての幼児が安心して園生活を過ごせるようにチームで支えていく。 適切な援助が行えるように専門的な知識や技術の習得に努め、特別支援教育の質の向上を図っていく。また、関係機関と情報共有しながら、保護者支援も強化していきたい。 就学に向けて年中児発達相談事業を基に関係機関との連携に努める。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	一人一人が安心して自分の思いを発揮し、集団の中で互いのよさや違いを認め合える仲間作りの実践を積み重ねた。市主催の研修会への参加や園内での人権教育講演会の開催などをとおして、自分自身の課題を見つめ、職員、保護者共に人権意識の向上に努めた。	3	3	引き続き人権教育を基盤に据えて、日頃の学級経営や保育実践に取り組む。多様なものの見方、考え方から適切な支援ができる実践力が身につくよう、今後も地域や校区内の学校と連携を取りながら職員研修や保護者研修を継続し、人権意識を磨いていく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	子どもの興味関心から積み重ねてきた遊びや体験を行事(運動会、生活発表会)につなげる工夫をし、行事に向かう過程をとおして子どもに育てたい力や学びについて検討して取り組んだ。幼児が主体的に取り組み、活動をとおして喜びや自信、達成感が味わえるように学年間で連携し、内容を工夫した。実施後のアンケートからも我が子や他学年の幼児の育ちを保護者に理解してもらえたと感じている。	4	4	行事のねらいと内容を明確にし、一人一人の幼児の育ちや学びにつながるように配慮する。幼児の実態から改善、見直しを行い、指導計画を基に見直しをもった構想や実践に努めていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	就学予定先への情報提供を行い、小学校との連携を密にした。四絡小、三中との交流では、授業や遊びをとおして子ども同士がかかわることで、就学への期待と憧れが高まった。また、講演会や保育公開に校区の保小中から参加してもらい、連携を図った。小中学校の授業公開にも参加し、互惠性のある連携に努めた。	3	3	今後も校区内の保小中学校との交流や職員間での情報共有などをとおして、細やかな連携に努めていく。来年度も保育研究会に案内し、保育をとおして異校種に対して幼児教育について発信できるような機会を設ける。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域(未就園児等)との協力関係はできているか。	保育公開日での親子活動や保護者研修への参加率が高く、幼稚園教育の取組に協力的であった。保護者によるお楽しみ企画や運動会、環境整備の役割などに協力的であった。 地域との連携については、園外保育や地域行事への参加、外部講師による体験活動を保育につなげることができた。未就園児教室は、遊びの提供や就園前の親子の交流、幼稚園の情報提供の場としての役割を果たすことができた。	3	3	地域のよさを活用できるよう情報収集し、幼児を取り巻く人や自然、文化とのかわりから、体験を広げていけるような活動や保育の計画、実践に努める。 保護者の悩みや不安を軽減できるように、子育ての情報交換や保護者同士の繋がりができる場を継続していく。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	今年度は、「いきいきと環境に関わりながら遊び込む幼児の育成」に取り組んだ。全市対象に保育研究会を開催し、全学級が保育を公開し、県幼児教育アドバイザー・市幼児教育指導員に指導を受けた。独自の「つながるシート」やドキュメンテーションを基に、遊びの中のひらめき、ときめき、気付きについて分析考察しながら、援助のあり方を探った。 市内外の各種研修会に積極的に参加し、自己研修に励むとともに伝達研修をして職員間で共有するように努めた。	4	4	実践記録から今年度の成果と課題を捉え、次年度へとつなげていく。 令和8年度の中国地区国公立幼稚園・こども園連盟研究大会に向けて、研究構想の再構成を行い、10月の発表に向けて計画的に進めていく。若手職員も取り組み易く、全職員で学びを深めていけるような園内研修の内容や機会を検討していく。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	園務分掌を基に早めの起案、計画実行に心がけた。実行後は成果と課題をまとめ、来年度に向けての改善を図った。分掌の担当や補助教諭の配置を見直し、特定の職員に負担が集中しないように分担したり、互いに協力したりして業務を遂行することができた。	4	4	引き続き、計画的な執行に努める。行事の見直しや会議の内容を検討し、業務の削減や効率化を検討する。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	危機管理マニュアルを基に様々な事象を想定した避難訓練を実施し、対応や役割を確認した。 園医や薬剤師と連携し、感染症の情報収集に努めながら、保健便りで通知したり、基本的な予防を継続したりして衛生管理や健康観察に留意した。 学期ごとの怪我マップから原因分析を行い、事故防止につなげていくように努めた。	3	3	預かり保育時に地震が起こった経験から、いろいろな場面を想定した避難訓練や日頃から災害における危機管理意識をもち、臨機応変に対応できる力を身につけていく。ヒヤリハットシートへの記録分析を基に事故防止に努める。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	毎月の安全点検を行い、必要に応じて市担当課と連携し、迅速に対応した。園舎の老朽化に伴い、今年度は雨漏りによる屋根の改修工事を行った。 総合遊具の老朽化による改修や遊戯室のエアコン設置など安全な教育環境の整備のために担当課との交渉を進めていく。	3	3	日常の安全点検に努め、改善、管理を継続する。必要に応じて市や専門業者との連携を図り、安心安全な環境整備に努めていく。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する